

## 第16回斎藤茂吉ジュニア短歌コンクール

# 最優秀賞受賞！

去る5月19日(日)、上山市で「第16回斎藤茂吉ジュニア短歌コンクール」の表彰式が執り行われ、最優秀賞を受賞した4組の渡邊聡美さんが出席しました。

日本を代表する歌人の名前を冠したこのコンクールには、山形県内はもとより県外、そして海外からも応募があり、小学校56校・2,834首、中学校37校・3,116首、高校46校・4,448首、合計139校・10,398首の作品が寄せられたそうです。高校の部は聡美さんの作品を含めて2首が最優秀賞に選出されました。以下に各部門の最優秀賞作品と、聡美さんからのコメントを掲載します。

### 【小学校の部】

がっしょうのしきしゃしているお兄ちゃんいつもとちがうせなかしている  
新入りのヒラタクワガタにらんでるアゴをふり上げいかくしてくる

### 【中学校の部】

はやぐこい祖母のさそいは電話ごし心のコードはつながっている  
憧れはπの終わりを追うごとし進む先にはいつものあの背

### 【高校の部】

蜘蛛の糸結ばれて行く順番を友達五人見つめた五月

待ちわびた姉の帰郷はすぐ過ぎて冷めた布団に香る東京

渡邊 聡美

ありのままに表現した作品が「最優秀賞をいただき大変嬉しく思っています。授賞式では小中高各2名のどんな人が短歌を詠んだのか、とても楽しみでした。式の中で、短歌文学賞を受賞された春日真木子さんは93歳の「高齢にも関わらず、老いを受け止め、今を生き、生命の歌を作り続けている」と語られ、素敵な笑顔と美しい言葉が印象的でした。帰り際には思いがけず、吉村知寿と斎藤家の皆様と記念撮影をすることもでき、私は今回の沢山の出会いにじから感謝しています。

「老いたるは化けやすしとぞ」<sup>くさかみ</sup>かばれば「花よ 私は生きる」

— 春日真木子<sup>1</sup> 句の扉<sup>2</sup>より (4組 渡邊 聡美)